

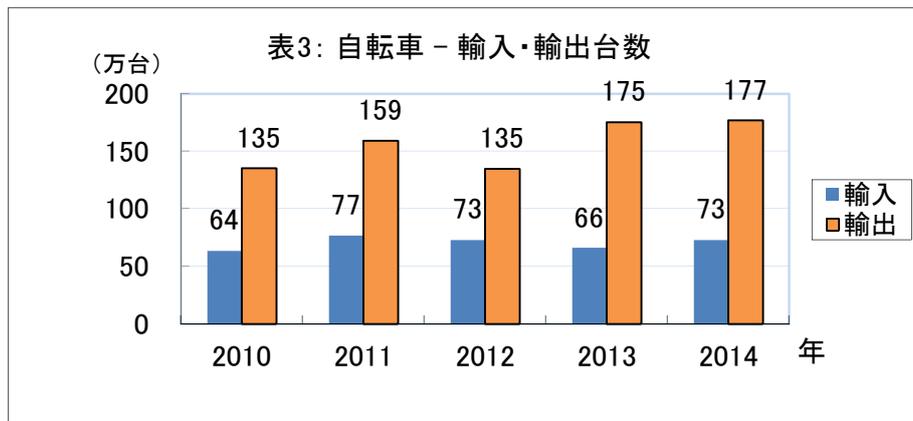
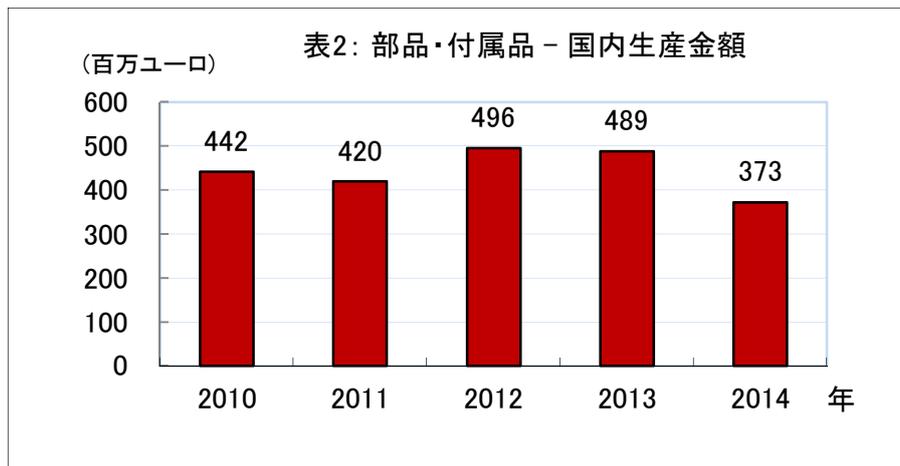
## イタリア自転車市況－2014

### 1. 生産、輸出入

欧州債務危機による経済不況のため低迷が続いたイタリア自転車産業界は、2013年に自転車(完成車)の国内生産台数が回復し、更に2014年は前年比2.2%増の273万台となり2年続けて生産台数が増加した。イタリア二輪車工業会(ANCMA)によると、生産増加の理由は2014年上半期の春先の天候が良好であったこと、また、従来から同国で製造が盛んな車輪径20インチ以下の子供車・幼児車が、昨年に引き続き好調であったためとみられる。

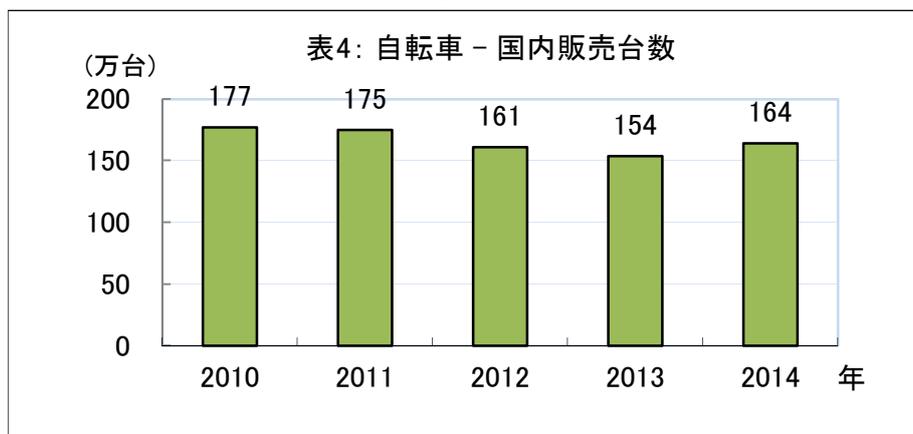
部品・付属品については、有力メーカーを複数抱える自転車サドルを筆頭に、ロードバイク用のフレームや関連部品等の生産も盛んであるが、2000年代前半までは部品・付属品の生産金額は500百万ユーロ超を維持してきたものの、自転車の生産同様、不況の影響によりその後減少傾向をたどり、2014年には前年比23.7%減の373百万ユーロ(504億円)と大きく落ち込み、400百万ユーロの大台も割り込んだ。2014年自転車の輸出台数については、前年比1.1%増の177万台と前年並みで推移した。地域別輸出で見ると、依然として輸出の大半は欧州諸国向けとなっている。2014年自転車の輸入台数については、前年比10.6%増の73万台と再び増加に転じた。

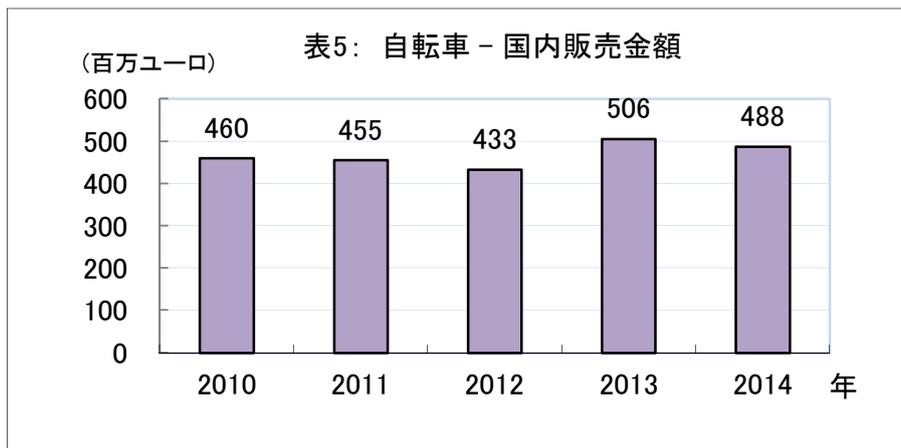




## 2. 販売

ANCMA の推計によると、完成車の2014年国内販売台数は前年比6.5%増の164万台となり、5年続いた減少によようやく歯止めがかかった。上述のとおり2014年春先の天候が良かったことが販売増につながったとみられる。しかしながら、自転車の販売金額でみると、2014年は前年比3.6%減の488百万ユーロ(659億円)とわずかに減少した。なお、2014年の自転車の平均販売価格は270ユーロ(36,450円)である。

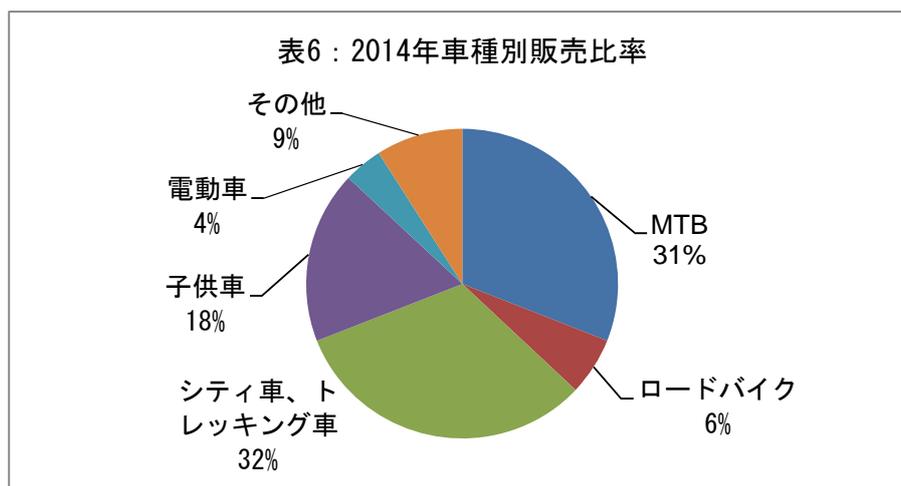




2014年の車種別販売比率は、前年同様に最多比率はシティ車・トレッキング車が32%、次いでMTBが31%、幼児車を含む子供車は18%、ロードバイクは6%、EPAC等の電動車は4%及びその他が9%となった。

地域別で見ると、自転車乗用環境の整備や自転車利用促進策が進むエミリア・ロマーニャ州(州都:ボローニャ、主要都市:モデナ、パルマ、フェッラーラ等)やヴェネト州(州都:ヴェネツィア、主要都市:ベローナ、パドバ、ヴィチエンツァ等)といった北東部の地域が、ローマ、ミラノ及びトリノ等の人口多い都市を有する州よりも自転車販売台数が多い。

業態別の販売比率で見ると、2014年の販売台数は自転車小売専門店が前年同様の40%、大型スポーツ店が40%、量販店が20%となり、大型スポーツ店の比率が増え、量販が減少した。販売金額では、自転車小売専門店が50%を占め、大型スポーツ店は前年同様の30%、量販は20%となった。因みに自転車小売専門店の商品別比率では前年と同じ、自転車販売47%、部品・付属品販売23%、衣料販売6%及び修理補修等が24%である。



電動アシスト自転車(EPAC)の販売については、2014年は前年比0.5%減の51,156台にとどまった。イタリアはフランスと同様に大型スポーツ店の販売比率が高く、EPACブームに沸く独・蘭の両国に比べEPAC販売の伸びは緩やかであった。2014年に仏市場ではEPAC販売台数が例年より一段高い増加率をみせたものの、伊市場ではEPACブームが始まったとはまだ言え

ない状況である。しかしながら、同国でも従来は比較的な安価な輸入車が EPAC の主体であったが、独・ポッシュ社製の電動ドライブユニットを採用した付加価値の高い自国ブランドの EPAC も市場に出回るようになり、ANCMA では 2014 年の販売台数はわずかの減少にとどまり EPAC の需要は堅調であるとして、同車種の販売は今後も成長が期待されていると述べている。

表 7: 電動アシスト自転車販売台数

年	2010	2011	2012	2013	2014
販売台数(台)	40,000	45,000	46,000	51,405	51,156

### 3. 自転車展示会

イタリアでは長らく ANCMA がミラノで自転車とオートバイの合同展「EICMA」を 11 月に開催してきた。その後、自転車単独に分離して 9 月に自転車展を開催するようになったが、年々その規模は縮小傾向となり、ANCMA 主催とは別に 2000 年代半ばから新たな展示会として「EXPOBICI」がパドバで始まった。両者は全く同じ時期に開催する等、真っ向から対立する状態が数年続いたが、ANCMA は EXPOBICI 主催者との合意により、2013 年よりパドバで自転車展を共同開催するようになり、ようやく競合の問題も解決したと思われた。しかし、ペローナにて「Cosmo Bike」という新たな自転車展示会の開催計画が 2014 年末になって出現し、イタリア自転車産業界は再び困惑し、パドバとペローナの両展が競合する状態へと戻ってしまった。

その後、Cosmo Bike は本年 9 月 11～14 日の間に開催され、屋内展示面積 4 万㎡及び屋外催事面積 2 万㎡に出展者 500 社が集い、来場者は 50,000 名を数えた。同展主催者は自転車のビジネス展示会として初回を成功裏に終えたと述べている。一方、EXPOBICI は試乗会や各種イベントを中心に、ユーザー参加体験型の色彩を強め同じ 9 月に開催された模様である。今後、この競合状態がどうなるのか、イタリア自転車市場を知る上で両展示会の動向に注視したい。

以上

統計出所：ANCMA、CONEBI (表 2、表 5)